

CSW69参加報告レポート

名前: 稲荷桃香

①自己紹介(100字程度)

SRHRユースアライアンスの稲荷桃香と申します。現在、地元の北海道で、子どもたちが学校のカリキュラムの中で継続的に包括的性教育を学ぶことができるよう、市民活動団体を立ち上げる準備をしています。

②どのようなイベントに参加したのか。イベントを通して感じたこと、心が動いたこと(500字程度)
「SRHR: A CRITICAL PATHWAY TO ERADICATING POVERTY AND ACHIEVING GENDER EQUALITY(SRHR: 貧困撲滅とジェンダー平等達成への重要な道筋)」では、世界的なジェンダー格差によって、特に若い女性と少女が貧困状態に置かれている現状が共有されました。貧困状態にある若い女性や少女は、経済的理由から性や生殖に関する自己決定権を行使できていない実態を聞きました。国際的に包括的性教育プログラムを開発する団体からは、経済的理由から生理用ナプキンを買うことができず、資金を手に入れるために望まない性的関係を結ぶ女性たちの逼迫した状況が語られました。

日本においても、若い女性や少女、LGBTQIA+当事者が、社会的・経済的な理由からヘルスケアサービスへ十分にアクセスできず、健康的な社会生活を送れない、学校生活やキャリアをやむなく中断するといった状況があります。

貧困と社会的な要因によって、構造的なジェンダー格差が生み出されていることを痛感しました。登壇者たちは共通して、ヘルスケアサービスの無償または低価格での拡充が、健康的に生理期間を過ごすことや若年妊娠・HIVなど性感染症のリスクを抑えることに繋がると述べていました。それにより、健康的に教育や就労の機会を確保することができ、貧困の再生産を防ぐことができると強調していました。

さらには、学校教育において包括的性教育を実施することが、すべての子どもと若者にとって、性と生殖に関する自己決定のための知識とスキルを育み、社会のジェンダー格差について考えることができる機会となることが話されていました。ひとりひとりが健康的な社会生活・学校生活を送れるよう、早急な実現が求められていることを再確認しました。



スウェーデン政府とソマリア政府の共催イベント「SRHR: A CRITICAL PATHWAY TO ERADICATING POVERTY AND ACHIEVING GENDER EQUALITY(SRHR: 貧困撲滅とジェンダー平等達成への重要な道筋)」の様子。政府代表の他にはユースアクティビスト、宗教コミュニティやスポーツチームと連携する包括的性教育団体、生理の貧困を解消を目指す衛生用品の製造企業が登壇していました。

また、「Advancing Comprehensive Sexuality Education (CSE) for Adolescent Girls and Young Women in Uganda(ウガンダの少女と若い女性のための包括的性教育の推進)」では、ウガンダの大学や市民プロジェクト団体から、包括的性教育の実践報告を聞くことができました。ピアエデュケーション(同年代の仲間による教育支援)形式によって、学び手が教え手と信頼関係を結びながら積極的に学んだという成果が調査データとともに報告されました。印象的だったのは、市民活動団体からウガンダ政府に対して、現行の限定的で禁欲的な性教育カリキュラムの改訂が提言されたことです。CSW69が、自国の進捗を世界に報告できる場でありながら、政府と対話する場にもなり得るのだと知った瞬間でした。



Oxfamと Uganda Missionによる「Advancing Comprehensive Sexuality Education (CSE) for Adolescent Girls and Young Women in Uganda(ウガンダの少女と若い女性のための包括的性教育の推進)」の様子。最初にモデレーターから、「このイベントは議論の場ではなく、行動を求める呼びかけの場である。」と喚起されました。

③CSW69の経験を今後どう活かすか。今後の抱負(500字程度)

まずは、来年のCSW70にてSRHRユースアライアンスとI LADYによるイベントが開催できるよう企画・提案したいと考えます。CSW69に参加して、世界のジェンダーやSRHRに関する課題が日本の課題と多く共通していると感じました。国際的な場で日本の課題を議論することによって、各国と共通課題を共有し合うとともに、国内のジェンダー課題やSRHR課題を国際的な視点から多面的に分析していきたいと思えます。

また自身の活動としては、SRHRの普及啓発にさらに力を入れていきます。SRHRは、性のあり方(性自認、性的指向、性表現)、人間関係の構築(誰と恋愛関係・性的関係を結ぶか結ばないか、結婚するかしないか)、妊娠出産、教育、ヘルスケアなどについて、自分にとって最良の選択を選ぶことができる権利のことを指します。CSWでSRHRが論じられているのを聞いていて、日本では、SRHRの各トピックが年齢や性別によって区分され、個別に語られているのではないかと感じました。SRHRという言葉がまだまだ浸透していない中で、それぞれ独立したものではなく、人の生涯の中で密接に関係し合っていることを踏まえ、丁寧にSRHRを伝えていきたいと思えます。



CSW69派遣メンバーの皆さんと。ユースメンバーとは滞在中ずっと、ジェンダーやSRHRに関するトピックについて話し合っていました。ジェンダー平等とSRHR推進を目指す仲間としてこれからも共に活動していきます！